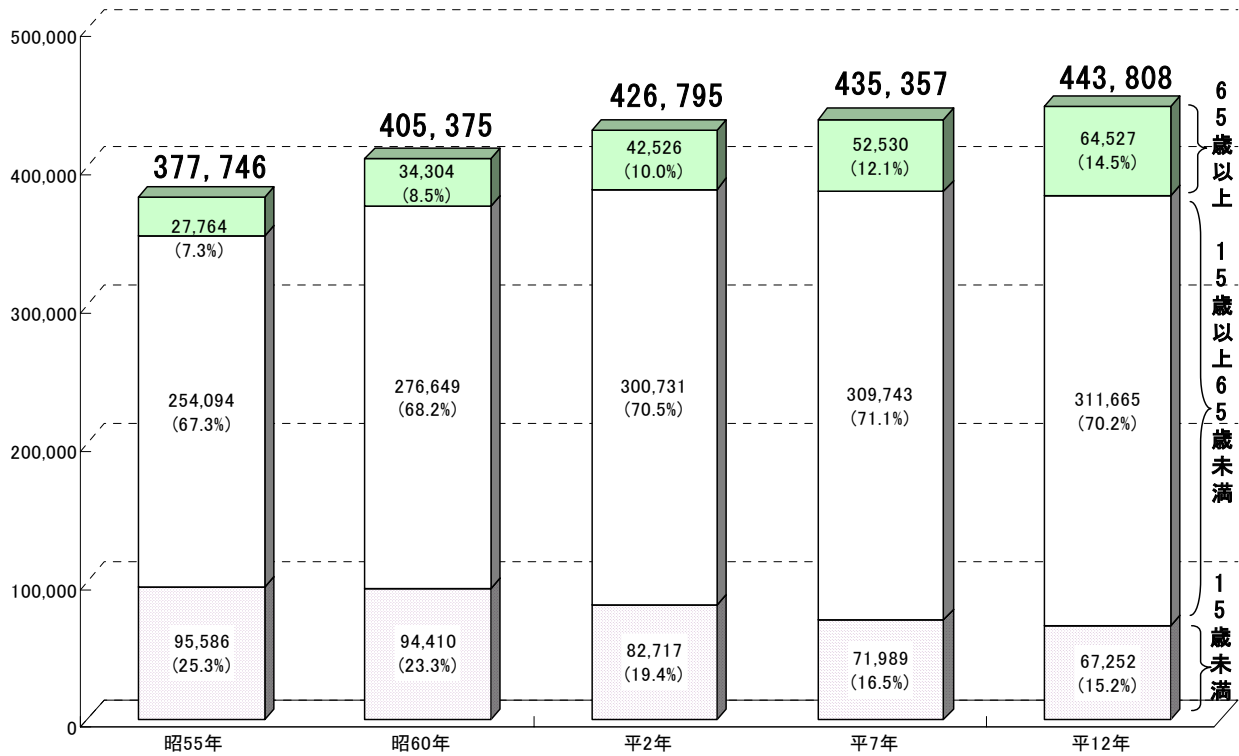


## ○ 少子高齢化の進展

①年齢三区分別人口の推移

単位=人



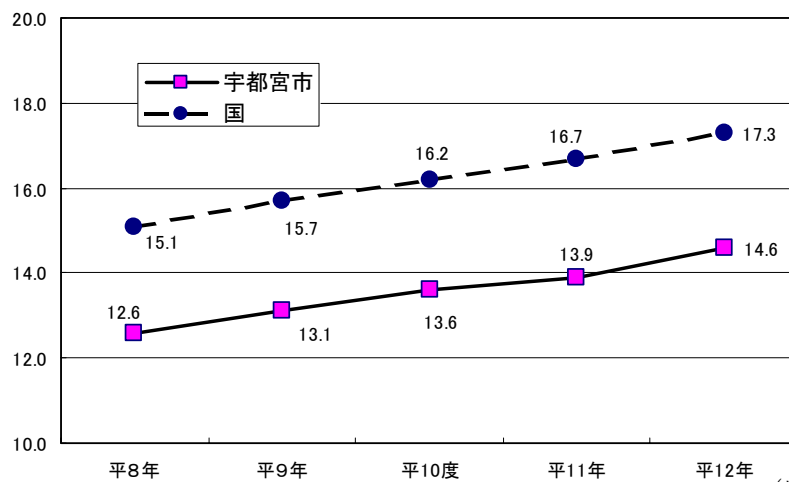
(出典：国勢調査)

- ・15歳未満の人口は、平成12年には、昭和55年の95,586人から67,252人と、約28,000人減少し、市民全体に占める割合が10ポイント程度低下しています。
- ・65歳以上の人口は、同様に27,764人から64,527人と、約37,000人増加しており、現在では、15歳未満の市民の割合とほぼ同程度となっています。

⇒15歳未満の人口は徐々に減少していますが、65歳以上の人口は増加しており、本市においても、少子・高齢化が着実に進展しています。

## ②高齢化率<sup>1</sup>の推移

単位＝％



(出典：宇都宮市統計書)

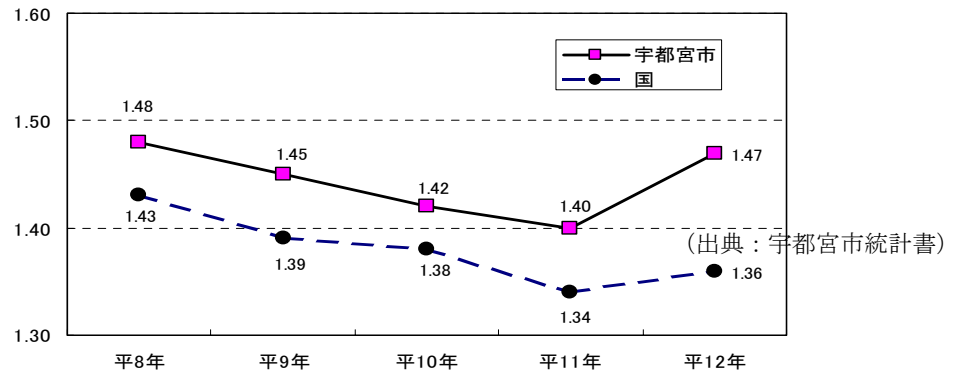
- ・ 高齢化率は、平成8年に平成12年にかけて、2.0ポイント上昇しています。

### 《用語の説明》

1. **高齢化率** 総人口に占める65歳以上の老年人口の割合をいい、国連の定義によると、老年人口が7%を超える社会を「高齢化社会」、14%を超えると「高齢社会」といわれています。日本は平成6年から既に高齢社会に入っており、今後は、先進諸国がこれまで経験したことがないほどの規模と速度で人口の高齢化が進行します。

### ③合計特殊出生率<sup>2</sup>の推移

単位＝人



- ・合計特殊出生率は、平成8年から平成11年にかけて0.08ポイント低下しています。

⇒合計特殊出生率は、母の年齢構造の変化から、平成12年度には一時的に上昇していますが、高齢化率の増加との相乗効果で、少子・高齢化がほぼ全国と同じ傾向で進展しています。

#### 《用語の説明》

2. 合計特殊出生率 15歳から49歳までの女子の年齢別出生率を合計したもので、1人の女子が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に生むとした時の子ども数に相当します。